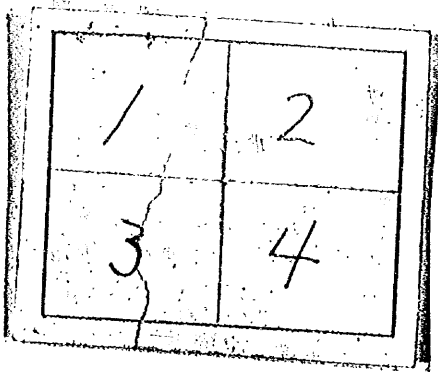


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0983
0984
0985
0986

部隊原簿

第一二八師團

部
隊
原
簿

第
一
二
八
師
專

部隊原簿

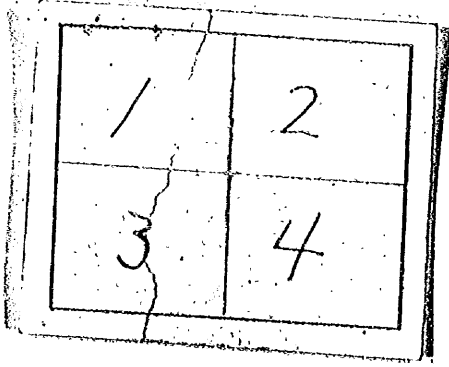
第一二二八師團

部隊原簿

第一二八師團

3A

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

隊名 第一二八師團司令部

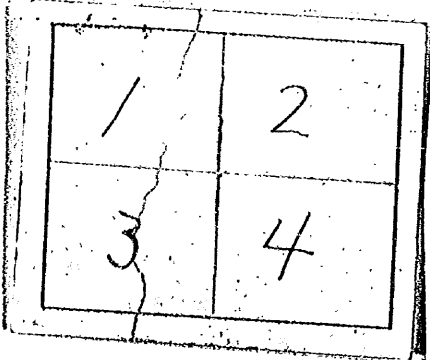
通稱號

英武一五二八八〇

郵便所名

隊別	隊長名 (内は先代を示す)	開人 戦時員	駐屯地		戦闘中の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ迄の變動	入ソ人員 除別計	滿洲残留	收容所			歸還人員 滿洲ソ領 より計	状況不明 者数
			平時	戦時						收容所名	所入員	死亡		
副官部	中將 水原 義重 副官 中川 少佐 佐々木	12 (10)	瀋子羅	瀋子羅	瀋子羅に移動 八、一四 瀋子羅に移動 八、一六 同地にて「ソ」軍指定のものと 誤認解除	水原中將八、一八、方正に移動後の後の消 息不明 終戦後瀋子羅に及副官、通譯は同地三軍司令 部へ復還 瀋子羅にて武解	瀋子羅に在りしものは金若 に收容 ▲ソリン方面へ在りしもの は披河に收容	司令部 憲兵一 兵隊部 軍属一 ムイラ ン地区 三三三 隊						
參謀部	長 大佐 石橋 忠夫 參謀少佐 下川 久 參謀大尉	40 (20)			瀋子羅に於て戦時状態に入り包圍せられ参 謀大尉一、参謀少佐一、兵隊一戦死す	瀋子羅に於て戦時状態に入り包圍せられ参 謀大尉一、参謀少佐一、兵隊一戦死す	參謀部久保少尉は同島に於 て作業第三大隊に編入 大隊長天野中尉 九、一三、▲ソリン地区							
兵器部	長少佐 大庭 廣忠 少尉 堀	20 (含要雇)			八、一四 瀋子羅に移動 八、一六 同地にて「ソ」軍指定のものと 誤認解除	瀋子羅に於て戦時状態に入り包圍せられ参 謀大尉一、参謀少佐一、兵隊一戦死す	八、二〇 金若收容所 作業六一大隊佐官以上は同 島へ 九、一九、クヌスキーへ移 動佐官以上は延吉收容所							
經理部	長經理少佐 小芝 長軍醫少佐 星野	20 (含要雇)			八、一四 瀋子羅に移動 八、一六 同地にて「ソ」軍指定のものと 誤認解除	瀋子羅に於て戦時状態に入り包圍せられ参 謀大尉一、参謀少佐一、兵隊一戦死す	八、二〇 金若收容所 作業六一大隊佐官以上は同 島へ 九、一九、クヌスキーへ移 動佐官以上は延吉收容所							
軍醫部	長軍醫少佐 星野	15												
長少佐	岩本													

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0927
0928
0929

第二軍第一二八師團部隊名 歩兵第二二八三聯隊

通稱號

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人調編	隊別	隊長名	開人	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	入ソノ迄の變動	隊別計	滿洲殘留	
<p>二〇、四 大坂子路にて編成完結 歩隊は砲隊前方にて砲地帯 築中であつたが命により東 京方面に退避三大隊は砲隊 部隊に對し砲攻撃一〇〇名 位の砲死者を出す砲地帯大 隊子路の砲隊の一部(約一ヶ 中隊)は「ソ」連隊と共に 主力位置に回つたが途中 砲撃を受け全員山中に退避 八、一〇 大坂砲に砲撃死せんとす 八、一五 大坂砲隊砲子路方面砲撃中 出撃 八、一九 老夏家西方六軒八砲隊下に て砲撃を知。 八、二九 主力は東京方面にて武蔵岡地 にて砲撃砲撃を受く(隊系 約一〇〇名連隊) 作業一六八大隊砲隊(二三 名) 二六二名 松山大隊 二六二名 大坂砲隊 三、(一)ロフメタ砲由(九、一 三、)ロフメタ砲隊に砲 撃所 一大隊の行跡 一大隊は砲撃命令に基き兵 器隊等整理砲隊主力の退 及を待た 八、二二 河地砲 八、二五 四住隊に浴び北 上中甸嶺北方十軒にて砲撃 隊</p>		<p>一九年以降 二〇、五中隊 在隊約一 五〇〇名入隊 二〇、七、末 約一〇〇名在 隊</p>	<p>一九年以降 七、二〇 一、二八砲隊 連隊砲隊員を し約一〇〇 名連隊</p>	<p>員人調編</p>	<p>第一聯隊</p>	<p>第一大隊本部</p>	<p>大尉 三上(戦死) 中尉 伊藤(代理)</p>	<p>70 ~ 80 (行李含む)</p>	<p>大城子 大城子</p>	<p>六三 大坂砲にて陣地構築同地に於て 別隊 八、一八 變老へ後退 八、二二 東京方面にて武蔵</p>	<p>八、二三 終戦後老夏家路に移動武蔵 八、二七 東京城十九、三按河十九、六發 河十九、一〇愛河田</p>	<p>作業大隊より「ソ」人員</p>	<p>隊別計</p>	<p>滿洲殘留</p>
第一聯隊	第三中隊	第二中隊	第一中隊	第一大隊本部	第一聯隊	中尉 伊藤	100 ~ 130 (入隊派遣隊)							
	御子業正紀													
	100 ~ 130	100 ~ 130	100 ~ 130 (入隊派遣隊)	50 (行李含む)	70 ~ 80 (行李含む)			大城子 大城子	六三 大坂砲にて陣地構築同地に於て 別隊 八、一八 變老へ後退 八、二二 東京方面にて武蔵	八、二三 終戦後老夏家路に移動武蔵 八、二七 東京城十九、三按河十九、六發 河十九、一〇愛河田	作業大隊より「ソ」人員	隊別計	滿洲殘留	

隊名 歩兵第二八三聯隊

通稱 通稱

郵便所名

第一隊	第三中隊	第二中隊	第一中隊	第一大隊本部	聯隊本部	隊別
	御子紫正紀		中尉 伊藤	大尉 三上(戦死) 中尉 伊藤(代理)	大佐 石丸 繁雄 副官 安永 貞徳 中尉 安永 貞徳	隊長名 (内は先代を示す)
	100 ~ 130	100 ~ 130	100 ~ 130 (入隊派遣隊)	50 (行李含む)	70 ~ 80 (行李含む)	戦闘人員 時員
					子城大	駐屯地 平時
					子城大	戦時
	八、九 空爆を受け種子島に出發大破 八、一九 八幡店に於て停戦を知る損害 八、二四 武蔵		六、三 大城麻にて陣地構築同地に於て 八、一八 養老へ後退 八、二二 東京城にて武解			戦闘間の状況及損耗
						終戦後の人員變動 八、二三 終戦後老衰海に移動武解 八、二七 東京城十九、三波河十九、六 八、九、一〇 豊河出發
						作業大隊より入ソの變動
						隊別 計
						満洲残留
						收容所名
						所人
						死亡
						満洲より領
						計
						者 数
						状況不明

六、二九 主力は東京方面にて武蔵野線にて輸送部隊を置く(警備隊約一〇〇名含む) 作業一六八大隊編成(二三名) 二六二名 松山大隊 二六二名 大坂方面にて武蔵野線にて輸送部隊を置く(警備隊約一〇〇名含む) 作業一六八大隊編成(二三名) 二六二名 松山大隊 二六二名

八、一〇 大坂方面にて武蔵野線にて輸送部隊を置く(警備隊約一〇〇名含む) 作業一六八大隊編成(二三名) 二六二名 松山大隊 二六二名

八、一五 大坂方面にて武蔵野線にて輸送部隊を置く(警備隊約一〇〇名含む) 作業一六八大隊編成(二三名) 二六二名 松山大隊 二六二名

八、一九 老及家西方六軒八徳殿下にて終戦を知る。

八、二九 主力は東京方面にて武蔵野線にて輸送部隊を置く(警備隊約一〇〇名含む) 作業一六八大隊編成(二三名) 二六二名 松山大隊 二六二名

八、二五 阿地登 八、二二 阿地登 八、二五 阿地登に沿ひ北上中甸嶺北方十軒にて武蔵野線にて終戦を知る。

大尉 三上(戦死)
中尉 伊藤(代理)

134

100 ~ 130

100 ~ 130

100 ~ 130 (入隊派遣隊)

50 (行李含む)

70 ~ 80 (行李含む)

子城六

子城六

六、三 大坂方面にて武蔵野線にて輸送部隊を置く(警備隊約一〇〇名含む) 作業一六八大隊編成(二三名) 二六二名 松山大隊 二六二名

八、一八 老及家西方六軒八徳殿下にて終戦を知る。

八、二二 阿地登 八、二五 阿地登に沿ひ北上中甸嶺北方十軒にて武蔵野線にて終戦を知る。

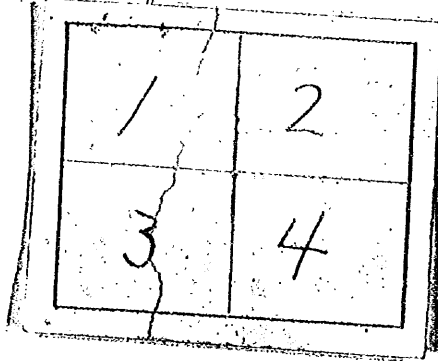
八、二四 式解

部 本 隊 第	部 本 隊 第	隊 中 一 第	隊 中 二 第	隊 中 三 第	隊 中 銃 關 機 一 第	隊 小 砲 兵 歩 一 第
大尉 三上(戦死) 中尉 伊藤(代理)		中尉 伊藤		御子繁正紀		
50 (行李含む)	70 ~ 80 (行李含む)	100 ~ 130 (入隊派遣隊)	100 ~ 130	100 ~ 130	134	
	子城六					
	子城六					
六、三 大坂方面にて武蔵野線にて輸送部隊を置く(警備隊約一〇〇名含む) 作業一六八大隊編成(二三名) 二六二名 松山大隊 二六二名		八、一八 老及家西方六軒八徳殿下にて終戦を知る。		八、二二 阿地登 八、二五 阿地登に沿ひ北上中甸嶺北方十軒にて武蔵野線にて終戦を知る。		
		八、二四 式解				

隊小砲兵歩一第	隊中銃關機一第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊六一第	部本隊
		御子紫正純		中尉 伊藤	大尉 三上(戦死) 中尉 伊藤(代理)	中尉 安永 貞徳
	134	100 ~ 130	100 ~ 130	100 ~ 130 (入隊浪進隊)	50 (行李含む)	70 ~ 80 (行李含む)
						子被
						子被
		八、九 空壕を受け御子落に出発大塚殿 八、一九 入徳店に於て停戦を知る出立 八、二四 武解		六、三 大塚殿にて陣地築築同地に於て 八、一八 空壕へ参進 八、二二 軍営に於て武解		

二〇一九年三月三十一日現在

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

八、一〇、大城砲臺
 八、一二、大城砲臺
 各守隊万才隊方面に布陣、
 六中隊はムーカン街西上西
 牛心屯に位置す
 二、三、四、六中隊は驛路
 中隊を大砲臺とし、津波匂子
 隊行着警備の任を帯び大城
 田邊
 八、一九、天徳嶺にて停戦
 を知り武解さる
 八、下如本隊も大城嶺より
 天徳嶺へ、此の間本隊は驛
 牛才隊西牛心屯にて積車
 数輛爆砕
 八、二七、駱駝山にてン軍
 の指揮下に入る
 東京城に行軍

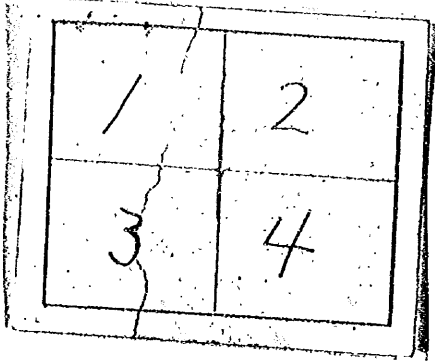
隊小砲兵歩二第	隊中銃關機二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊六二第
	中尉 岡部	中尉 横島 雷吉			
	134	100~130	100~130	100~130	70~80

ムーカン街西牛心屯に位置し
 八、一〇、大城砲臺方面に移動
 八、二七、駱駝山に於てン軍に入る
 万才隊に於て敵軍部隊と交戦、戦死一名

隊小砲兵歩二第	隊中銃關機二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本系六二第
	中尉 岡部	中尉 横島 雷吉			
	134	100~130	100~130	100~130	70~80

ムーカン街道西牛心屯に位置し
八、一〇 大城殿十天橋嶺方面に移動
八、二七 駱駝山に於てソ軍に入る
万才峰に於て敵戦車部隊と交戦、戦死一名

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0999
1000
1001
1002

第三軍第一二八師團部隊名 歩兵第一二八三聯隊

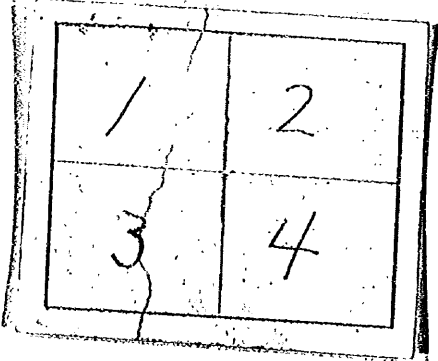
通稱號

滿洲
美武一五二八二七

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人訓編	隊別	隊長名	戰時人員	平時人員	戰時人員	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ迄の變動	隊別計	入ソ人員	滿洲殘留	收	
<small>三大隊は二〇、六、二九頭より老衰衰弱近に於て内地探察中隊となり敵は三大隊の正面に進入し三名死を致すし戦死す</small>		十九年以降	十九年以降		第三大隊本部	大尉 小川 三夫 (内は先代を示す)											
					第七中隊	中尉 山崎											
					第八中隊	中尉											
					第九中隊	少尉 池田龍太郎											

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

隊名 歩兵第二八三聯隊

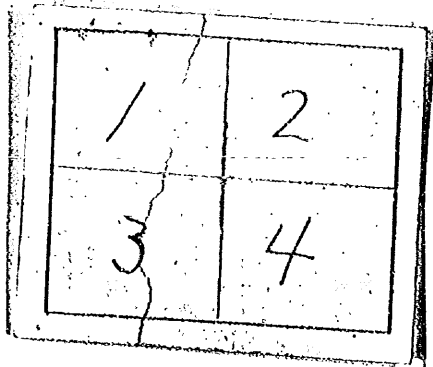
通稱號 英武一五二六四二七

郵便所名

隊別	人員	隊長名 (内は先代を不 中尉 差藤 廣)	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員		滿洲 残留	收容所		歸還人員	狀況不明 者数
						隊別	計		收容所名	員所人		
隊小砲兵步三第	150											
隊中信通	100											
隊中砲兵步												
隊小馬乘	30	少尉 丸山 尙志										

	隊 小 馬 乘	隊 中 砲 兵 歩	隊 中 信 通	隊 小 砲 兵 歩 三 第
	少尉 丸山 尙志			
	30		100	150

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

部隊名 歩兵第二八四聯隊

通稱號

英武一五二五八三四

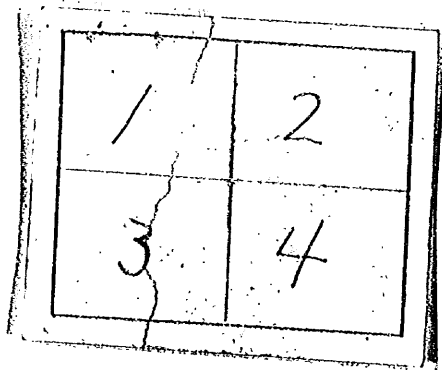
郵便所名

隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊聯	員人編
少尉 原口 正徳		大佐 山下 利秋 大尉 三上	大佐 松吉 趙天	別 隊 (内は先代を示す)
230	230	150	240~250	時員 戦 個人
			(山黒老) 寧 東	駐 屯 地
		溝 子 羅	(山照監) 溝子羅	戦 斗 間 の 状 況 及 損 耗
大平澤にて陣地構築、大隊長指揮の下牡丹江天敵の線に退かんとし行動中師團命令受領天敵に於て東軍旅團と合流中隊長以下三名戦死 八、二八、天橋嶽にて武蔵	右 戦死一五〇 中隊長戦死	一大隊は第三陣地に位置し敵の進軍を受け戦死約五〇	羅子溝附近の溝子に於て玉碎せるものゝ如し 部隊本部は當時慶山に位置し敵の進軍を受け包圍状態に入り一大隊の増援を求め戦死約二〇〇部隊長戦死	終戦後の人員變動
80 右 同	80 右 同	100 右 同	40~50 同 至天橋嶽にて武蔵	作業大隊より入ッ迄の變動
八、三一、東安城二六六大隊長大尉西尾元 九、一〇、按河蘇芬河より入ッ 一三名ビキン市に轉属	右 同	ムイリ地区 右 同	金吾に收容二〇、九、中野作業第五三大隊に編入大隊長福本大尉 九、一九、滿洲世登クラスキ	入ッ人員 除別 計
約 80	約 80	約 100	約 40	滿洲殘留
ら せ 考 思 と の も る お し 滿 在 部 一 系 聯				
アホール保六四軒 地點		ムイリ地区第三地 一〇五收容所	ムイリ地区	收 容 所 名
80	80	350	40	員所 人
		2		死 亡
				滿洲より 領
		2		計
		三上大尉 外二名 北川兵長		者 数 狀況不明

隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 六 一 第	部 本 家 第
	少尉 原口 正徳		大佐 山下 利秋 大尉 三上	
230	230	230	150	240~250
				(山縣志) 等
			藩 子 藩	(山縣志)、 藩 子
右 同 戦死一五〇	大平藩にて陣地構築、大隊長指揮の下牡丹江天敵軍の陣地退却として行動中敵軍の突撃に於て東岸隊と合流中隊長以下三名戦死 八、二八、天橋嶺にて武解	右 同 戦死一五〇 中隊長戦死	一大隊は第三中隊の位置に據り進軍を遂行し戦死約五〇	大平藩にて陣地構築、大隊長指揮の下牡丹江天敵軍の陣地退却として行動中敵軍の突撃に於て東岸隊と合流中隊長以下三名戦死 八、二八、天橋嶺にて武解
80 右 同	80 右 同	80 右 同	100 右 同	
右 同	八、三一、東京城二六六大隊長天敵軍退却 九、一〇、被河敷河より入ッ 一三名ヒキーン市に轉属	右 同	ムーリ地区 右 同	大平藩にて陣地構築、大隊長指揮の下牡丹江天敵軍の陣地退却として行動中敵軍の突撃に於て東岸隊と合流中隊長以下三名戦死 八、二八、天橋嶺にて武解
約 80	約 80	約 80	約 100	約 40
鮮 系 一 部 在 藩 的 も の と 思 考 せ る				
	アホール保六四軒 地點		ムーリ地区第二地 區一〇〇收容所 一〇五收容所	
80	80	80	350	
			2	
			2	
			三上大尉 外二名 北川兵長	

分割撮影ターゲット

分割した
部分の
撮影順序

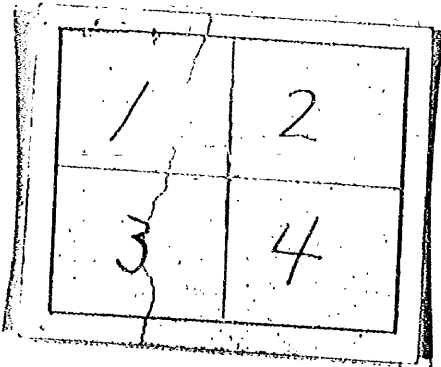


分割撮影
した理由

A 3 判 以 上 の た め

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1015
1016
1017
1018

第二軍第一二八師團部隊名 步兵第二八四聯隊

通稱 英武一五二五八三四

郵便所名

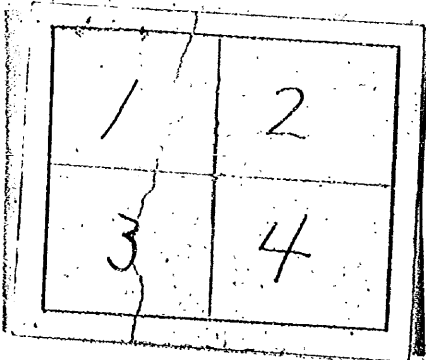
全般概要				轉入	轉出	員入制編						
				十九年以降	十九年以降							
部本隊大三第	隊小砲兵歩二第	隊中銃關機二第	隊中六第	別隊	隊長名	開入	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ迄の變動	隊別計	滿洲殘留
大尉 福本					()内は先代を不示す							
240~250		250	230									
山照盛												
120~125		125	115									
約 120		約 125	約 115									

山照盛に位置し敵の進軍を受け包圍状態に入り約半数戦死す

隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第	隊 小 砲 兵 歩 二 第	隊 中 銃 關 機 二 第	隊 守 六 第
中尉 中西 (負傷入院)	大尉 福本			
230	240~250		250	230
	山照盛			
右 河	山照山に位置し敵の進軍を受け包圍状態に 入り約半数戦死す		右 河	
115 右 河	120~125 右 河		125 右 河	
右 河	右 河		右 河	
約 115	約 120		約 125	約 115

隊中七第	部本隊大三第	隊小砲兵歩二第	隊中銃關機二第	隊中六第
中尉 (負傷入院)	大尉 福本			
230	240~250		250	230
	山照盛			
右 河	山照山に位置し敵の進軍を受け包圍状態に 入り約半数戦死す		右 河	
115右 河	120~125右 河		125右 河	115
右 河	右 河		右 河	
約 115	約 120		約 125	約 115
			125	115

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1019
1020
1021
1022

第三軍第一二八師團部隊名 歩兵第二二八四聯隊

通稱號 英武一五二八七三四

郵便所名

全般概要						全
轉入						轉入
轉出						轉出
員人制編						員人制編
兵歩	隊中通信	隊小砲兵歩三第	隊中銃關機三第	隊中九第	隊中八第	別隊
	見士					隊長名 (内は先代を不す)
	200		250	230	230	戦時 人員
						平時
						駐屯地
	右同		右同	右同	前同	戦闘間の状況及損耗
	100右同		125	115右同	115 要所に於て	終戦後の人員變動
				右同	前同	作業大隊より 入ソシ迄の變動
	100		約 125	約 115	約 115	隊別 計
						満洲残留
						収容

隊名 歩兵第二八四聯隊

通稱 義勇隊

英武一五二五八三四

郵便所名

砲兵歩	隊中通信	隊小砲兵歩三第	隊中銃關機三第	隊中九第	隊中八第	別隊	人員
	見士					隊長名 (大は先代を不示す)	
	200		250	230	230	戦時	個人
						平時	駐屯地
						戦時	
	右		右	右		戦闘間の状況及損耗	
	100右		125	115右	115	終戦後の人員變動	
				右		作業大隊より入ソンの變動	
	100		約 125	約 115	約 115	入ソ入員	
						除別計	
						滿洲殘留	
						收容所名	
	100		125	115		收容所	
						人員死亡	
						滿洲より領	
						計	
						者数	状況不明

隊小馬乘	隊中砲兵歩	隊中電信通	隊小砲兵歩三第	隊中銃關機三第	隊中九第	隊中八第
		見士				
		200		250	230	230
		右 同		右 同	右 同	
		100 右 同		125	115 右 同	115
		100		約 125	約 115	約 115

